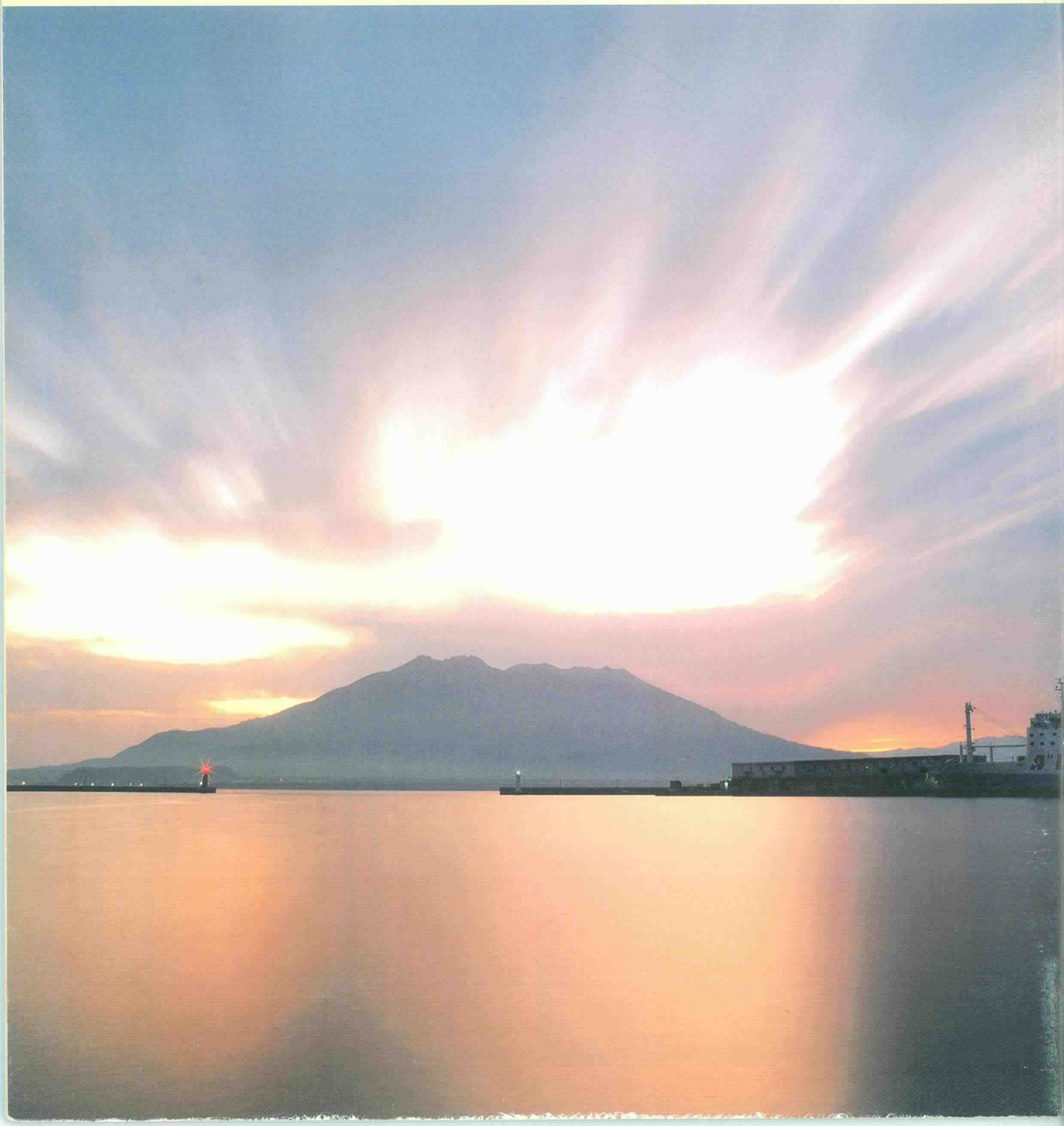
市民フォト KAGOSHIMA 鹿児島

No.55

平成6年（1994年）1月1日

特集・昔からの子どもの遊び

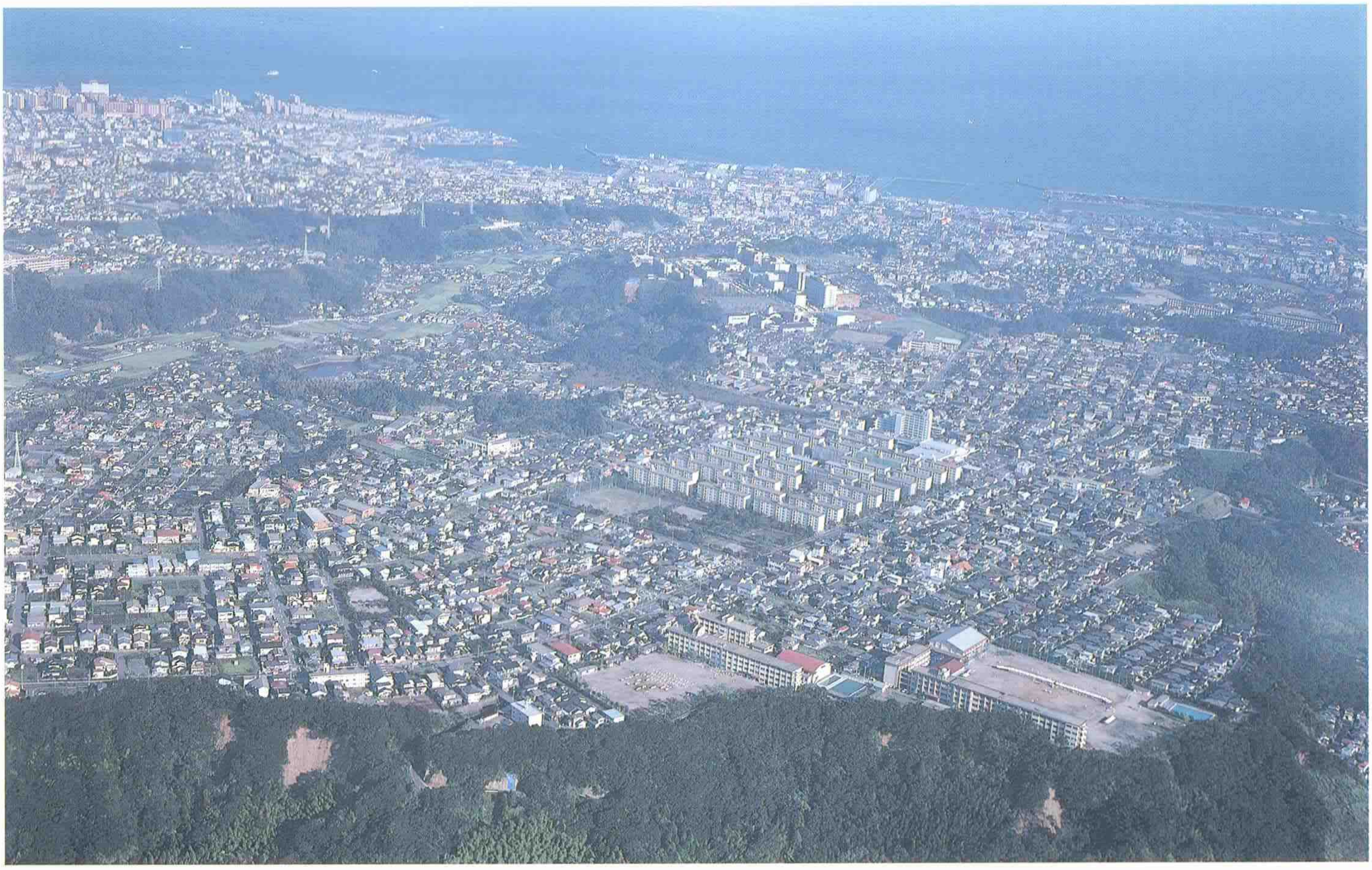


わがまち高度 350M

●桜ヶ丘団地付近

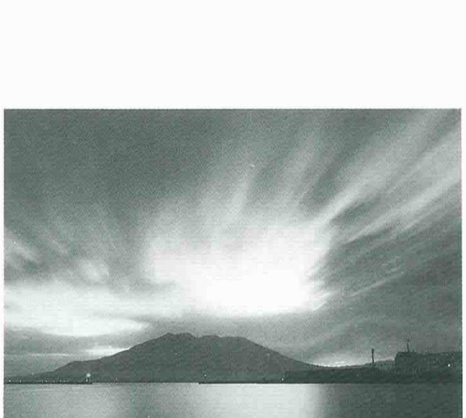
写真中央、台地いっぱいに広がっているのが桜ヶ丘団地。区画整理の手法による開発が昭和53年に完了した同団地は面積140ha、計画戸数3,864戸となっており、市内有数の規模である。団地中央部に位置する市営住宅や県営住宅などをはじめ、住宅が整然と建ち並び、緑地も広く確保されていることから、快適な住環境が生まれている。

写真左端の桜ケ丘一丁目から写真中央上に見える鹿児島大学医学部・歯学部と同附属病院、医療技術短期大学部付近の桜ケ丘八丁目まで、ここに暮らす人は約15,000人にものぼる。



市民フォト鹿児島No.55 【もくじ】

わがまち高度350m……2
特集／昔からの子どもの遊び……3〜11
クローズアップ（森 重孝さん）……12〜13
学校探訪（鴨池小学校）……14〜15
カメラトピックス……16〜17
ハロー鹿児島（タイン・オクさん）……18
シティーアングル……19
わたしの散歩道（馬込 實さん）……20〜21
市民のひろば（健康のポイント 運動・栄養・休養）……22〜24
ふるさとの史跡（「新樹寿庵松記」の碑）……25
集えば楽し（劇団「風見鶏」）……26〜27
あなたのフォトサロン（朝市寸景）……28〜29
平川動物公園のゆかいな仲間たち……30
市立美術館「オフィーリア」……31



●「表紙」写真説明

初東雲（はつしののめ）

幾多の先人たちが数知れない試練を乗り越えて愛した郷土鹿児島。平成六年の幕明け…。さらに安心して暮らせるまちづくりへの槌（つち）音（おと）が聞こえてくる。（撮影／水谷進）

特集

昔からの子どもの遊び

手づくり絵はがきと玩具・シィタタッノタロジョ（川邊正己氏所蔵）

学校から家に帰り着くやいなや、カバンを放り投げて遊び仲間の待つ場所へ。家の縁側、原っぱ、神社やお寺の境内、空き地、山、海、川……。昔から、まちのいたるところが子どもの遊び場になっていました。

四季折々の自然の移り変わりに応じたさまざまな遊びは、長い歴史のなかで私たちの先祖、そして私たち一人ひとりによって受け継がれ、創造が加わり変化を遂げてきました。木ぎれ、竹、草花、はぎれ、空き箱、紙など、いろいろな素材を利用した遊び道具もバリエーションに富んでいます。遊び道具の中には芸術性が高いもの、今や文化財として価値を持っているものもあります。

昔から無数に伝わる子どもの遊び。あなたは、どんな遊びを楽しんできましたか？

（遊びの名称や遊び方などは地域によって多様ですが、今回は一般的なものを取り上げています。）

正月の遊び

●こままわし

●たこあげ

●こままわし

競い方はいろいろです。寿命くらべ…長く回っているこまが勝ち。はじきっこ…回っている相手のこまに自分のこまを打ちつけて、はじきだす。当てごま…回したこまを近づけ、ぶつけ合って倒れたほうが負け。投げごま…遠くに投げて回し、投げた距離を競う。そのほか、曲芸として、すくいとり、空中遊泳、つなわたり、エレベーターなど。

●たこあげ

風の具合いを見計らってタイミングよくあげます。角形、長方形、菱形、五角形、六角形、やっこだこ、とびだこ、せみだこ、ちょうだこ、むかでだこ、あんどんだこなど。最近は洋だこがはやっています。

●羽根つき

二人で向き合って羽根をつきあい、地面に羽根を落とした方が負け。負けた人の顔に墨を塗っては、大笑いしたり、べそをかいたり。また、「羽根つき歌」にあわせながら羽根をつく回数を競うこともできます。

●かるたとり

「犬も歩けば棒にあたる」のいろはかるたや童謡かるた、のりものかるたなど。小倉百人一首も日本に古くから伝わっています。

昔の玩具

郷土玩具の収集家、川邊正己氏の所蔵品から。約五千点にのぼる川邊氏の所蔵品の数々は昭和二十九年に県の重要文化財に指定されています。

●竹刀(左) ●板馬(中) ●ハジキ猿(右)

●ギッチョ(左) ●コマ(中) ●デゴマ(右)

●羽子板

●ヒキコマ

●ハマなげ

●かるたとり

●羽根つき

●福笑い

目かくしをした人が顔の中に目や鼻、口などの切り抜きを置いていくたびに笑い声があがります。

●ハマなげ

薩摩に伝わる男の子の遊び。七～八人ずつが一列で向かい合い、木を輪切りにしたハマを一メートル程の棒(ボット、ハマトベ、ハマウッボ)で打ち合います。ハマを受け止め、打ち返せるかどうかで味方内の優劣を競ったり、相手と競ったりしたということです。

●すごろく(絵すごろく)

さいころを振って、出た目の数だけ進みます。だれが一番早くあがれるかな?

屋外の遊び

●竹馬

●ビー玉(めだま)

●竹とんぼ

●ビー玉(めだま)

集めるだけでも楽しい、きれいなガラス製のビー玉。地面に描いた三角や丸の中のビー玉めがけて投げたり、地面にいくつかの穴を掘って入れて回ったり、相手のビー玉に当てたり。

●竹　馬

速く歩く駆けあし、片足の竹を肩にかつぐ鉄砲かつぎ、歩くとき両足の竹を×型にあわせて音をたてるかつおぶしけずり、一本足で飛び跳ね、残りの一本を槍のように構えるやりつきなどの遊び方があります。

●竹とんぼ

しん棒に鋭い回転を加えて、はねを空高く飛ばそう。

●水きり石

直径四～五センチの丸く平たい石を使って、横手で水面めがけて投げると遠くまで跳ねていきます。だれが一番たくさん跳ねさせられるかな?

●ゴムとび

あしかけとび、まるとび、男とび、女とびなど、いろいろな跳び方があります。ゴムの高さも手を頭の上に伸ばしたおピン、ピン、あたま、め、みみ、あご、かた、むね、こし、ひざといろいろ。

●おしくらまんじゅう

寒い日など、「おしくらまんじゅう、おされてなくな……」と声をあげて押し合えば、体がほかほかに。円の外から鬼がつかまえるようにすれば、円の中のおしくらまんじゅうは、もっとスリルに満ちてきます。

●花いちもんめ

二組に分かれて、それぞれのグループの人数を増やしていきます。「勝って うれしい花いちもんめ」「負けて くやしい花いちもんめ」……。

●パチンコ(石やり)

木の枝のまたになっているものを探すところから、この遊びは始まります。タマは紙を濡らして丸めたものを使うと安全です。どんな的だって一発で当ててやる!

●ゴムとび

●水きり石

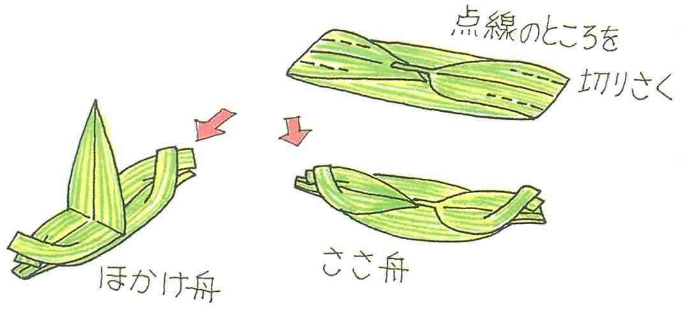
●パチンコ(石やり)

●花いちもんめ

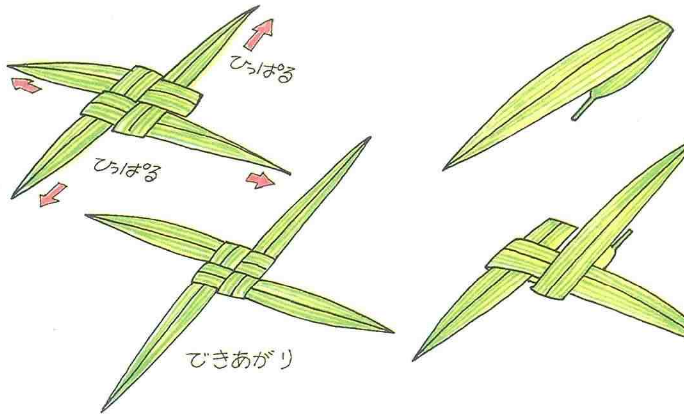
●おしくらまんじゅう

草花でつくるおもちゃ

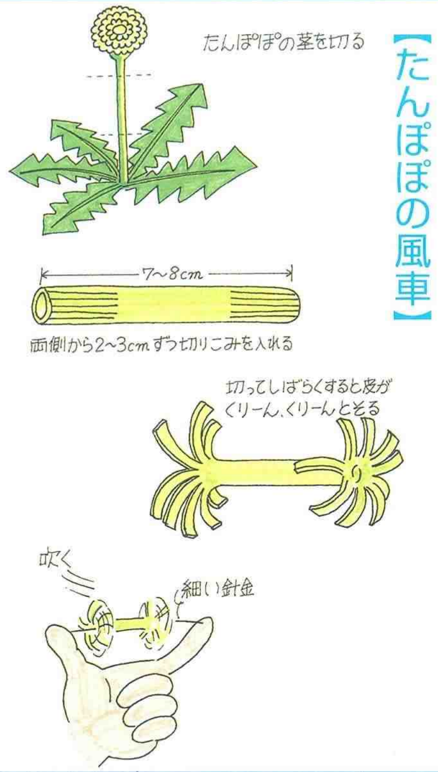
【ささ舟】



【しゅりけん】



【たんぽぽの風車】



屋内の遊び

●折り紙

●折り紙

折り紙の美しい色と風合は、昔から子どもばかりでなく大人にも愛されてきました。つる・やっこさん・かぶとなど、伝統的な形だけでも五百種類以上も伝えられてきました。

●あやとり

太めの糸が一本あればできる、手軽な遊びです。指でひっかけたり、くぐらせたり、はずしたり。たまには口にくわえたりして、いろいろな形を作り上げます。二人あやとりは会話も弾みます。

●おはじき

はじき当てや数当て、つかみ取り、落とし当てなどの遊び方があります。指で弾く時ばかりでなく、弾く前の「きる」動作の時も慎重に。

●けん玉

玉を臼形の皿の上に乗せたり、突き出たケンに刺したりして技を競います。もしもしかめよ、三味線、野球、世界一周、フリケン、燈台などの芸があります。

●お手玉

立ち姿勢では数個のお手玉を両手か片手または二人で持ち、投げ上げてから再び手に受け取ります。座った姿勢では数個のお手玉を床の上に置いて、取り・おさらい・手のせ取りの三つの動作を組み合わせて遊びます。

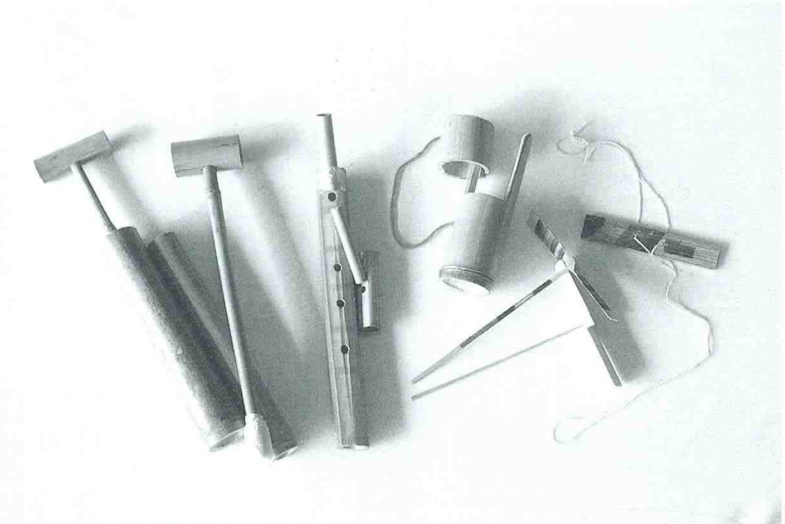
●あやとり

●おはじき

●お手玉

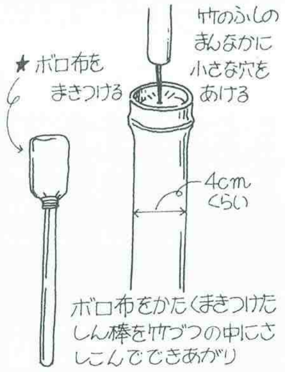
●けん玉

手づくりおもちゃの作り方



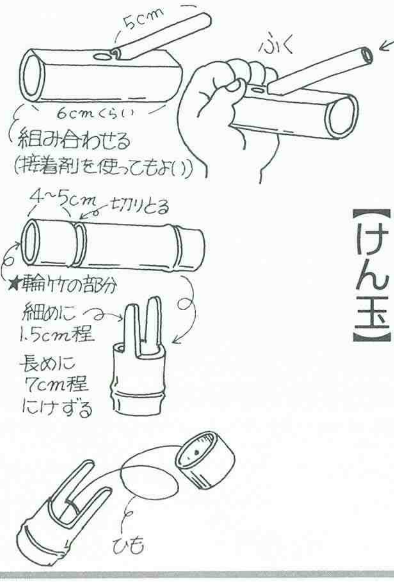
●水てっぽう ●竹笛 ●けん玉 ●竹とんぼ ●ブンブン

【水でっぽう】

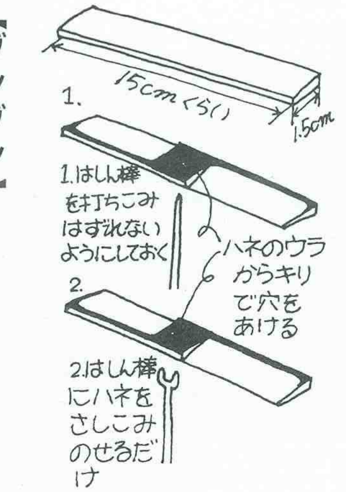


【竹笛】

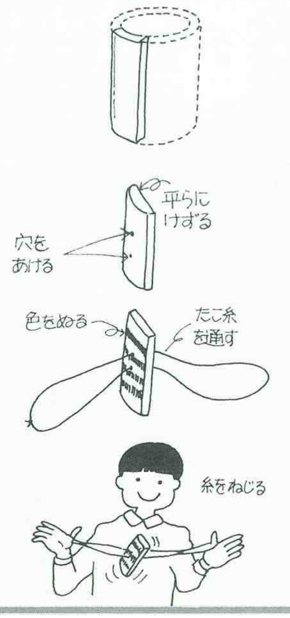
【けん玉】



【竹とんぼ】



【ブンブン】



まだ若こごわんど！　〃遊び〃を求めて、いしき園訪問

十一月十二日(金)晴れ間の広がるなか、鹿児島市西伊敷四丁目にある養護老人ホーム「いしき園」を訪ね、お年寄りの皆さんが子どものころ、どんな遊びに熱中していたか取材しました。

脇田イクエさんは、お兄さんと一緒に遊んでいたというオテンバさん。『めだま遊び』、砂を取り合う『陣取り』、エビやカニなどをとった『川遊び』、そのほか『けん玉』『馬とび』『カッタ』などをして遊んだとのこと。女性の遊びでは『ビズロ』。「『おはじき』のことをそう呼んでいましたが、ガラスを指す『ビードロ』がなまったものでしょう」と教えてくれました。

また、木脇ワイさんも男まさり。野球によく似た『開戦』や『竹馬』でよく遊んだとのこと。脇田さんと遊びの話がよく合いました。

一方で、撰シヅさんは「わたしは『はないちもんめ』『あやとり』『ハンカチおとし』など、女の子の遊びばかりでした」と話し、そして、ゴムまりでの『まりつき』は、「上手になって大きな〃まり〃を買ってもらうために、みんな一生懸命だった」と楽しそうに語ってくれました。

女性の方々が口をそろえて「一番の楽しみだった」と話してくれたのが『ひぐれさあ』。『ひぐらさあ』『ひごろさあ』と、人によって呼び方は違うものの、『ままごと』のことです。と言っても、今のおもちゃでの遊びではなく、はがま、なべ、茶碗など家庭で使うものを子ども用に小さくした本物の食器を使って、実際に味噌汁などを作って家族の方々に食べてもらうというもの。お盆の行事の一つだったとのことで、この遊びを通して女の子は料理を覚え、家庭の味を引き継いでいったものだと教えてくれました。

そして、お正月には『すごろく』。東海道五十三次を上がっていくものだったそうです。また『こままわし』も、よく回るように研究を積み重ねていたようです。

集まってくれたなかで唯一の男性の八木信治さん。八木さんは幼少のころは薬師町に住んでおり、学校から帰ると、すぐ学舎に通っていたとのこと。遊びと言えば、体を動かすのが中心。学舎の友だちと相撲をとったりしたと話してくれました。

話がはずむなか、集まってくれた方々が『おはじき』『お手玉』『あやとり』を実際にして見せてくれました。さすが、昔(?)とったきねづか。おはじきの間に小指を立てて線を引いたり、お手玉を投げ上げる姿に、皆さんの子どものころの姿が浮かんできました。

「昔の遊びは、年をとってもできるものが多かったけど、今の子どもたちの遊びでそういうものがあるかな？」と、皆さんが遊ぶ姿を見ていると考えさせられました。そして、「わたしにも孫がいるけど、近頃の子どもは群れをなして遊ぶことはないですね。外で遊ぶより一人で家で遊ぶことが多いけど、どうしたもんでしょうか」と話す皆さんの言葉に、思わずうなずいてしまいました。

●出演者／写真後列右から　撰シヅさん(83歳)、木脇ワイさん(85歳)、中津川ツヤさん(86歳)、八木信治さん(88歳)、前列右から濱田シヅエさん(81歳)、脇田イクエさん(73歳)

遊びの場で歌われた「わらべ歌」

資料／久保けんお他「日本わらべ歌全集26　鹿児島・沖縄のわらべ歌」(昭和55年)

●寄いごっかいごっ〈人寄せ歌〉

寄いごっ　かいごっ
早よ寄らんな　三十日のゴンマ　ゴンマ

●一ちょかけ二ちょかけ〈手まり歌〉

一ちょかけ　二ちょかけ　三ちょかけて
千石馬場から　あか馬　しろ馬
走らせみたれば　行ってみたれば
旦那さんに打たれて　ゆっちゃゆくませ
いっちゃいくませ　谷山くんだい
チュックイ　チュックイ　チュックイ

●一かけ　二かけ〈手合わせ〉

一かけ　二かけ　三かけて(セッセッセ)
四かけ　五かけて　橋をかけ(セッセッセ)
橋のらんかん　腰をかけ(下句で手を腰に)
はるか向こうを　眺むれば(下句で小手をかざす)
十七、八の　姉さんが(指で数をかぞえる)
花と線香　手にもって(右、左と物をにぎるまね)
姉さん姉さん　どこへ行く(さしまねくまね)
わたしは九州(自分の鼻を指さし)
鹿児島の(遠くの方を指でさす)
西郷隆盛　むすめです(鼻ひげをなで、いばる)
明治十年　戦役に(指で数をかぞえる)
切腹なされた　父上の(切腹のまね)
お墓参りに　参ります(セッセッセ)
お墓の前で　手をあわせ(下句で合掌)
なみあむだぶつで(手ですり合わせる)
ジャンケンポン(ジャンケンをする)

●おじいさんエ　おばあさんエ〈人当て鬼〉

おじいさんエ　おばあさんエ
お茶をいっぱい　のましゃんせ
鬼「お茶は　まだまだ」
まだと言うなら　お前のうしろに誰がいる
鬼「花子ちゃん」
ちんがらがった　ちんがらがった
お前のうしろに誰がいる(違ったとき全員で)
鬼「俊子ちゃん」(鬼が言い当てるまで繰り返す)
ひとり　ふたり　さんめの子
よってたかって　ひとつかめ　あとは誰にさせようか
鬼「あのひとさーん　このひとさん」

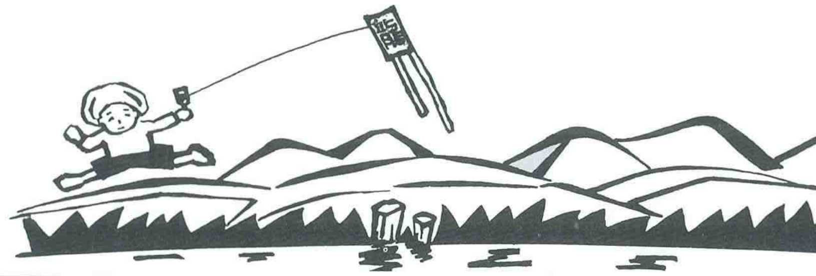
●泣こかい　飛ぼかい〈飛び降り遊び〉

泣こかい　飛ぼかい　泣こよっか　ひっ飛べ

●いろはに　こんぺいと〈尻取り歌〉

いろはにこんぺいと　こんぺいとはうまい
うまいはお砂糖　お砂糖は白い
白いはうさぎ　うさぎは速い
速いは自動車　自動車はくさい
くさいは便所　便所は黄ろい
黄ろいはバナナ　バナナは高い
高いは富士山　富士山は寒い
寒いは北海道　北海道は遠い
遠いは関東大震災(「いろはにこんぺいと」に返る)

鹿児島の「子どもの遊び」History



西暦	1868	1912	1926	1945
	明治期	大正期	昭和前期	昭和後期
男児	はまなげ こまあそび やきゅう ぎっちょ めんこ やまあそび へいたいごっこ たけうま ねっき たこあげ	こまあそび めんこ たこあげ じんとり へいたいごっこ はまなげ やきゅう ビーだま かいせん たけうま	めんこ ビーだま こまあそび へいたいごっこ やきゅう たこあげ たけうま じんとり いしけり かいせん	さかなとり やきゅう めんこ ビーだま すいえい じんとり うまとび かんけり ドッジボール すもう
女児	まりつき おてだま おはじき にんぎょうあそび やまあそび ままごと じんとり くにとり おにごっこ あやとり	おてだま まりつき おはじき にんぎょうあそび ままごと カルタ はねつき かくれんぼ たいしょうごと ゴムとび	おはじき ゴムとび にんぎょうあそび じんとり かくれんぼ なわとび おてだま ドッジボール かくれんぼ たけあそび	ゴムとび なわとび かくれんぼ すいえい ドッジボール いしけり おはじき おてだま フラフープ めんせきとり

資料／半澤敏郎「童遊文化史」第1巻(昭和55年)

「子どもにとっては遊びが仕事」というように、子どもは夢中になって遊びに没頭できる存在です。

昔から子どもは「仲間と、外で、身体を動かして、自分で考えて」遊んできました。遊びに大きなエネルギーを注ぎながら、異なる年齢集団の遊び仲間の中で、さまざまな遊びの原則やルールなどを体得したり、個性をもった複雑な人間構成から多様性を学んだりします。また、自然の複雑な実体に触れ、その中で正しく判断して行動するすべも身につけます。さらに、遊びの伝統的な部分を受け継ごうとする一方、遊びの中に新しい要素を取り入れる創造性もはぐくんでいきます。

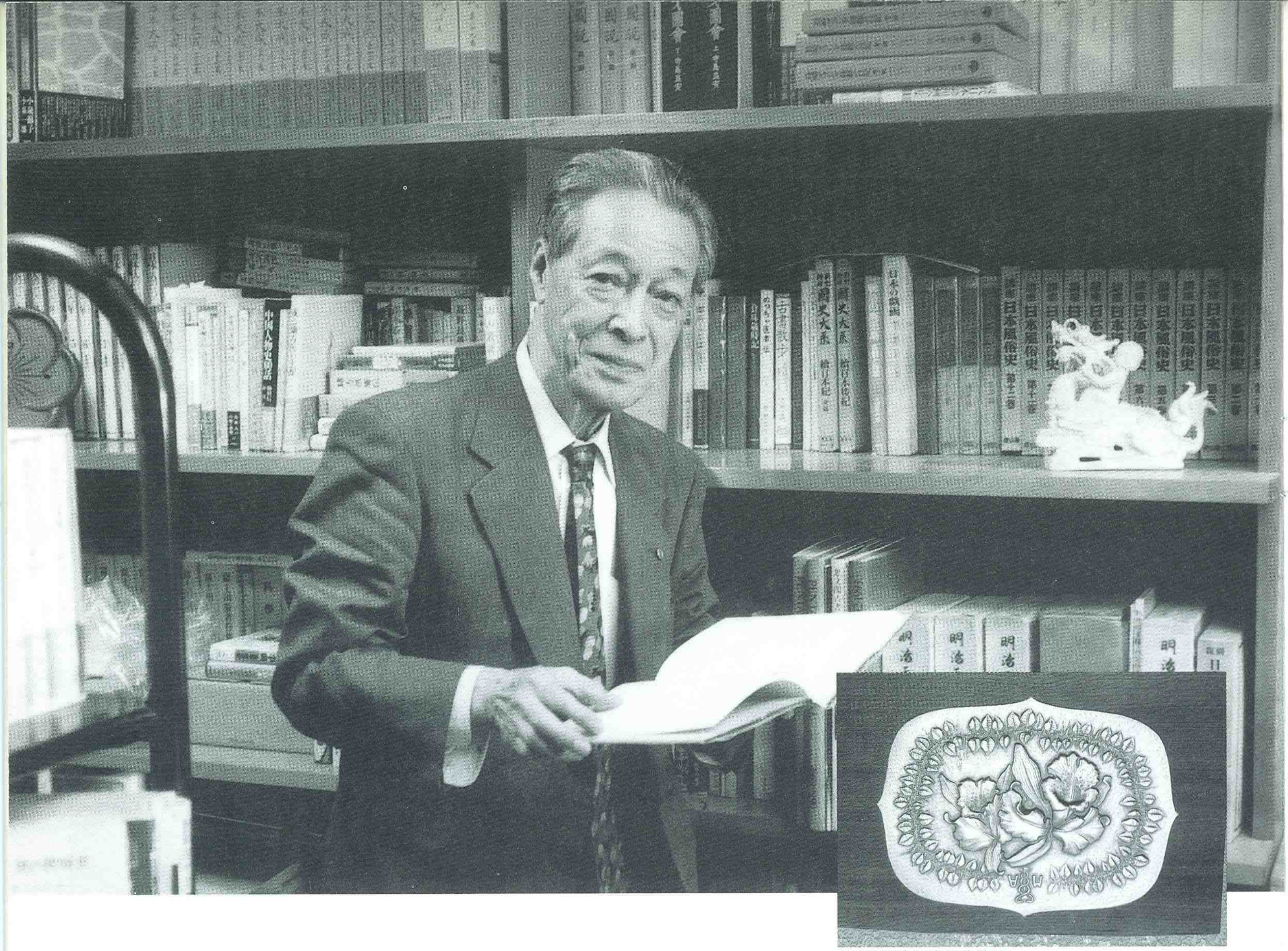
最近は、子どもが遊びを楽しむ自由な空間や時間が少なくなり、同年齢の少人数グループが室内で既製のおもちゃを使って遊ぶことが多くなってきました。子どもの遊びにとって大きな転換期を迎えている今こそ、昔からの遊びにもっと多くの子どもたちが親しめるといいですね。

クローズ CLOSE UP アップ

元鹿児島市立病院副院長・元同市立乳児院長

森　重孝さん

郷土医学史の研究を始めて三十年余。その功績が認められ、平成五年度日本医師会最高優功賞を受賞。「男は五十歳を過ぎると家のルーツを探りたくなるもの。それと同じように私も医者として医学のルーツに興味をそそられました」。動機を淡々と語る森さんだが、資料集めや本の出版など医学史の研究には、かなりの情熱を注いできた。



「明治生まれの小児科の医者どんだから、きっと、こてこての鹿児島弁だろう」などと勝手な想像をしていたが、お会いしてみたら、スマートな標準語でダンディーに決めていらっしゃる。思わず緊張して硬くなった私に、ゆったりとした穏やかな口調で、診療していたころのこんなこぼれ話を聞かせてくれた。

「せきがひどいと言って母親が子どもを連れてきた。母親いわく『親の言うことに耳を貸さず、夕べ裸で寝たので風邪をひいたらしい』。そこで私は答えました。『この子の病名は親の言うことを聞かん(気管)支炎ですなあ』と」。プッツン！頭の中で緊張の糸が切れる音がした。

合間に飛び出す洒落に会話もなごやかに進んでいった。

森さんが招いてくれたのは薬師二丁目の自宅近くにある、森さん専用の二階建てのライブラリー。七千冊の蔵書は医学書はもちろん、郷土誌、洒落本に至るまでジャンルは幅広い。書斎の一角には、能面や焼き物のコレクションが数多く並ぶ。「どうやら、物を集めたがる性格でして……」。

三十数年前、好奇心から始めた医学史の研究は歴史的にも貴重なものとして高い評価を得ている。そんな森さんが、このほど「鹿児島の医学」を出版した。江戸時代からの医学史や昔の医療機器、更には「へっ」や「つぐろじん」といった鹿児島弁の病名の由来などを紹介した厚みのある歴史書で、これまでの研究の集大成とも言える。「江戸時代、島津藩主は参勤交代という苛酷な任務を強いられた。そのため医者を重宝し、西洋医学の導入や研究に積極的だった」。森さんの口から興味深い話が次々と飛び出す。歴史について語る時、その目がとりわけ輝きを増す。

進歩ばかりに目を向けられがちな医学分野で、なぜ歴史を？この問いに「ルーツを知りたかったから」と淡々と答える森さんだが、資料集めに東奔西走し、数多くの文献を出版するなど、ひたむきに研究に打ち込んできた。原点や初心を見つめ直してほしいとの願いが研究に込められているのかもしれない。

日本医師会最高優功賞楯

森さんは医学史の研究にいそしむ一方、家庭教育の指導者としても活躍している。乳児院長だったころ、四つん這いになって子どもたちを背中に乗せたり、診察の時、自分の目線と同じ高さのところに子どもを座らせるなど、何よりもスキンシップを大切にしてきたという。最近、子どもとふれあいを持たない親が増えてきたと森さんは憂慮する。子育てに関するあらゆるノウハウを現代の親たちに分け与え、健全な子どもの育成を目指す。

長崎医科大学出身の森さんは、原爆被爆体験者で県原爆被爆者福祉協議会の会長も務める。当時、爆心地からわずか六百五十メートルの大学病院で外来患者の診察にあたっていて、九死に一生を得た森さんは、二度と悲劇を繰り返さないよう核廃絶を訴え続ける。

去年、十月に八十二歳の誕生日を迎えた森さん。今、神話について執筆中とか。好奇心で輝く瞳をいつまでも持ち続けてほしい。

文／玉泉和江・KKB記者

【プロフィール】

知覧町出身。長崎医科大学卒。同大学附属病院小児科助教授、佐世保市民病院小児科医長を経て、昭和二十八年から五十一年まで鹿児島市立病院小児科部長・副院長、同市立乳児院長を歴任。その後、昭和六十二年まで鹿児島女子短期大学教授。現在、同短期大学、鹿児島県医療法人看護専門学校専門課程、鹿児島高等看護学院で講師をつとめる。

日本の医学史、特に郷土薩摩の医学史研究に専念、「薩摩医人群像」「鹿児島の医学史散歩」「鹿児島の医学」など著書多数。

薬師二丁目に妻・澄子さんと二人暮らし。八十二歳。

学校探訪

鴨池小学校

●創立…昭和25年4月1日 ●児童数…1,012人(平成5年11月1日現在)

■鴨池地域総合文化祭での堂々の演奏。さわやかな調べが会場に響き渡りました

私たちの鴨池小学校

六年　池島　麻未
六年　谷口　夏桜

私たちの学校は、県庁舎の建設現場から十分ほどのところにあります。昔は、旧海軍の航空隊基地や鹿児島(鴨池)空港などがあった場所です。

私たちの学校では、今年からJRC(青少年赤十字)に加盟して、さまざまなボランティア活動に取り組んでいます。その活動の一つとして、夏の集中豪雨の被災者の

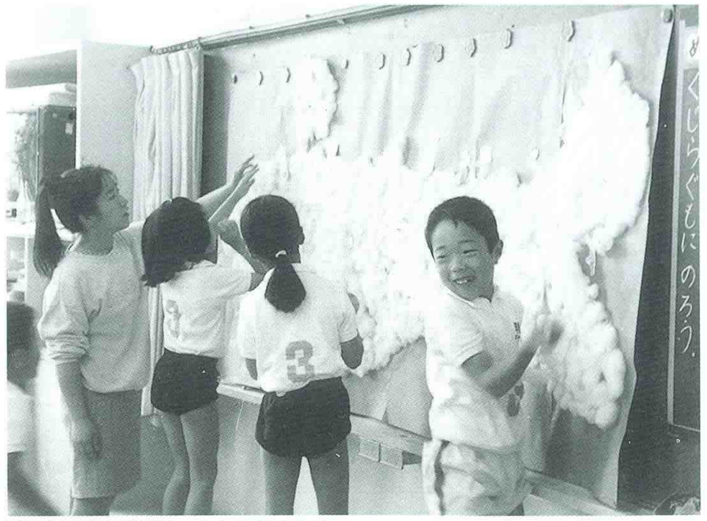
■2年生の生活科～「だいこんさん、大きくしてあげるからね」

■鴨池の子どもは、いつも元気はつらつ

■ちょっぴり緊張したけど、みんなの息はピッタリ ～学習発表会～

■先生と一緒に「あっち向いて、ホイ」

■お母さん方の給食試食会「栄養も味もバッチリね」


■「ぼくのはここだよ。みんな見える？」

方々へ義援金を集めて贈ったり、災害を受けた学校に激励の手紙を出したりしました。また、総務委員会が中心となって「あいさつ運動」も行っています。このような私たちのささやかな取り組みが大きな輪となって広がってくれたら、とてもうれしいです。

JRC活動のほかにも特色ある活動がいくつかあります。全校児童で取り組んでいる「一人一鉢運動」や六年生が中心となって行っている朝の「奉仕作業」などです。みんなで心と力を合わせて、元気に活動しています。

なんといっても、鴨池小学校の一番の自慢は、千十二人の全校児童がとても仲良しだということです。学年・学級の友達だけでなく先生やほかの学年の友達とも一緒に遊んだり、助け合ったりして、楽しく学校生活を送っています。

今年で創立四十四年目を迎えましたが、これからも「自ら学ぶ子、助け合う子、がんばる子、元気な子」の校訓のとおりに、明るく輝く鴨池小学校にしていきたいと思います。

9月5日／市立少年合唱隊創立20周年記念定期演奏会

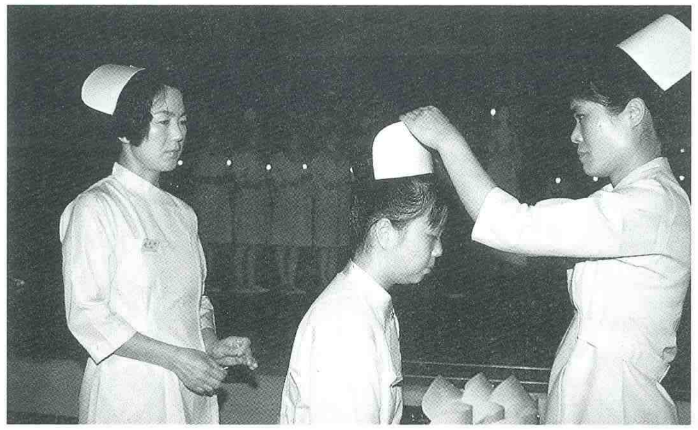
20周年を迎えた市立少年合唱隊の定期演奏会と記念式典が市民文化ホールで催されました。20周年を記念して作られた合唱組曲「かごしま」も紹介され、美しいハーモニーが1,800人の観客を魅了しました。

10月5日／持明院様（ジメサア）の化粧直し

市立美術館前庭にあるジメサアの年1回の化粧直しがありました。おしろいを塗り、口紅をさしたジメサアは、久しぶりのおしゃれにニッコリ 笑みを浮かべているようでした。

9月9日・10日／いつまでもお元気で！鹿児島市の敬老訪問

敬老の日を前に市長をはじめ市の職員が88歳以上のお年寄り 2,510人を訪問しました。年をとっても、まだまだ元気。「若いもんには負けません」と話すお年寄りの笑顔が印象的でした。

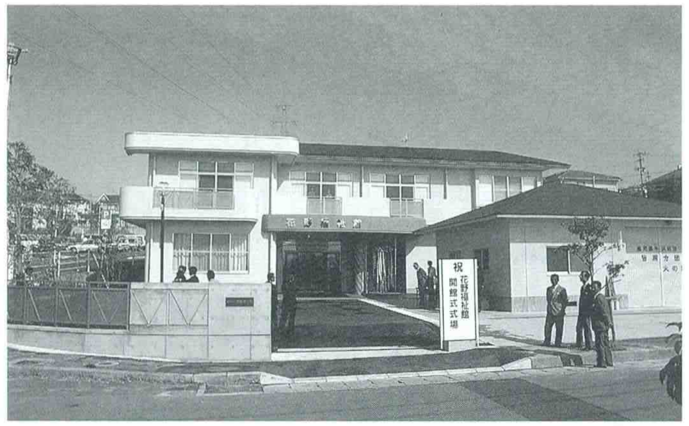


10月8日／市立高等看護学校の戴帽式

今年で20回目を迎える市立高等看護学校の戴帽式が市立病院学術講堂で行われました。あこがれのナースキャップなどを着けてもらった30人の生徒たちは、一人前の看護婦・看護士になるため誓いを新たにしました。

11月4日／ミス鹿児島の冬服披露

11月2日から1年間の任期がスタートしたミス鹿児島の3人。さっそく、白と黒を基調とする落ち着いた冬の制服を披露してくれました。制服にすてきな笑顔を添えて観光鹿児島をPRしてくれることでしょう。

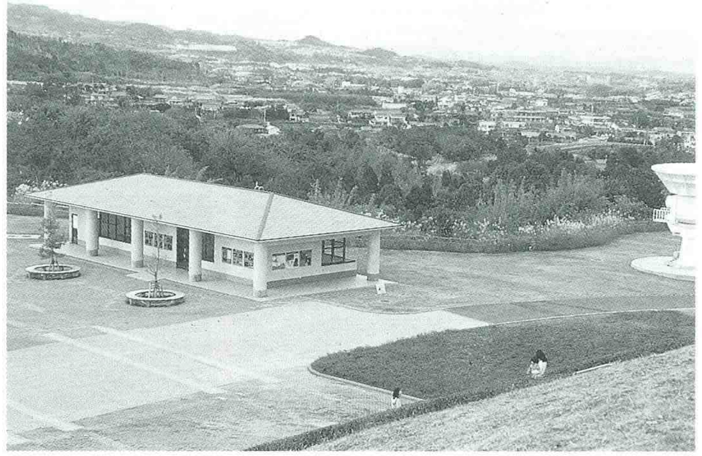


10月19日／花野福祉館開館式

37番目の地域福祉館として花野福祉館がオープンし、開館式がありました。高齢者や子どもたちのふれあいの場として、また地域のコミュニケーションづくりやボランティア活動の推進の場としてご利用ください。

11月2日・3日／第42回おはら祭開催

おはら節・はんや節などに乗り、2日間で229連、20,413人の方々が気持ちのいい汗を流しました。観客も60万人を超え、街にはにぎやかな声がこだましていました。



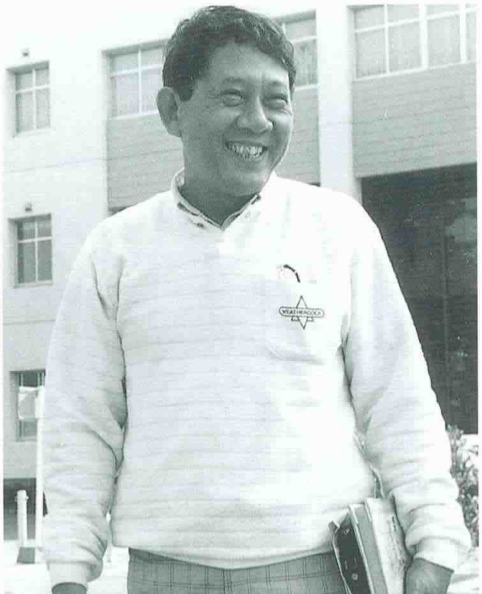
11月8日／錦江湾公園〝宇宙学習施設〟オープン

平川町の錦江湾公園内に電波望遠鏡の観測室と学習室を備えた宇宙学習施設が完成し、開所式がありました。この施設で子どもたちが宇宙への夢を大きく育ててくれることを期待しています。

ハロー鹿児島

HELLO—KAGOSHIMA

タイン・オクさん
（ミャンマー）



昨年二月から鹿児島大学農学部に留学しているミャンマーのタイン・オクさん。一九七九年から二年半、水産学部に在籍していたこともあり、今回が二回目の留学。

祖国の工業大学の助教授でもあるタインさんは、最初の留学から帰国後、学生の希望もあって、講義の傍ら手作りの教材で日本語教室を開いた。しかし、学生たちに教えるうち、詳しい辞書が必要だと痛感する。ミャンマーにも、日本にも、日本語をミャンマー語に訳した辞書はなかったのである。

当時、いつかまた日本で自分の専門の研究をしたいという夢と、母国語によく似た日本語を言語学的に研究してみたいという思いを抱いていた彼は、自分のためにも辞書を作ろうと思いたった。

それから暇な時を見つけては、コツコツと原稿を書いて十年余り。やっと昨年五月に「日本・ミャンマー辞典」を自費出版できた。

肉体的・経済的苦労を乗り越えて、一つの夢を実現したタインさん。これからも両国の文化の大切な架け橋になってくれることでしょう。

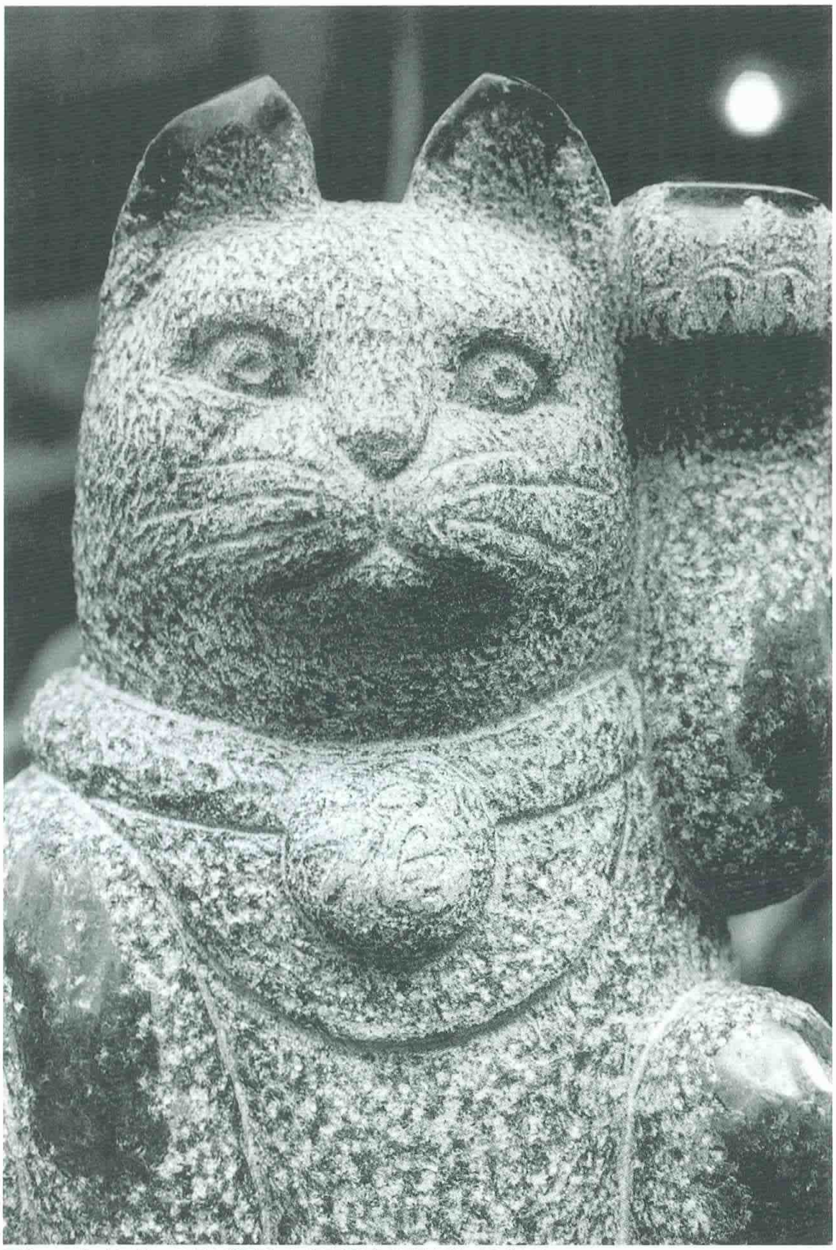
不屈の探究心を持つタインさんだが、鹿児島での好物は？の問いに「トンコツ」と一言。「ミャンマーには〝肉の王様は豚〟という、ことわざがあるんです」。少し照れたように話すタインさんに心から親しみを覚えました。

食品工学を専門に研究中

シティーアングル CITY ANGLE

黙座石

雑踏のなかで、じっと何かを見つめている。
風の街で、ひたすら春を待っている。
伝えたいのは、街の鼓動と遥かなる時の流れ。
そんな石たちの優しさと温もり。
心に感じたい——。



■ショーウインドーの前に鎮座した商売繁盛の「招き猫」(金生町)

■転ばぬ石の球?(山下町)

■街の「田の神さあ」の両手には、さつまいもが……(東千石町)

わたしの散歩道

感謝してます！"魚"ひとすじ健康人生。

鹿児島市魚類市場
魚食普及協議会会長
馬込　實さん

威勢のいいせり人の甲高い声、鐘の音、活きのいい魚介類……。

この魚類市場に来るたびに「さあ、今日もきばっど！」という商売人の血のたぎりを感じます。

ピーンと神経が張りつめるとでも言うんでしょうか。

この新鮮な感情があるから、四十年間、魚屋という商売を続けられたのかも知れません。

市場が住吉町から、ここ城南町に移転したのが昭和四十二年。

時代は変わっても、市場は変わることなく、私を母のように温かく、時には父のように厳しく育ててくれました。

職業として魚屋を選んだのは、一言で言って「男の仕事」だから。一心太助じゃないけれど、男は、きっぷのよさと心意気で勝負ですよ。

日の出よりも早く起き、せり落とした魚を店に並べ、さあ商売。

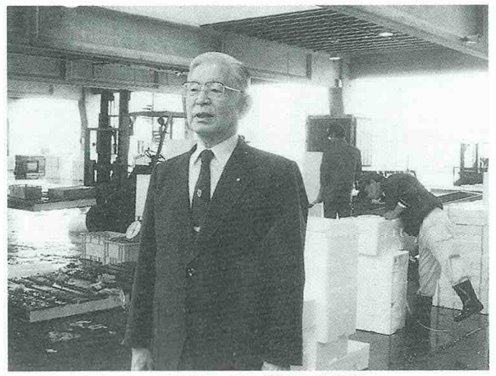
師匠もなく、魚のおろし方もろくに知らないで魚屋を始めた私にとって、お客さんを含め周りの人全てが先生でした。見よう見まねで必死に頑張りました。

当時は運搬用の車などなく、もっぱらリヤカーが貴重な戦力。夏など魚の鮮度を落とさないようにと毎朝、汗びっしょりになり、住吉町の市場から南林寺の店まで全速力でリヤカーを引っ張ったものです。

この市場跡の港に立つと、ピチピチと跳ねる魚の銀鱗とともに、あのころの市場のにぎわいがまぶたに浮かんできますね。

当時は錦江湾でもイワシやキビナゴ、アジやサバがたくさんとれ、昼になっても魚を一杯に積んだ漁船が次々と入ってくるほどでした。

肉なんて滅多に食べられない時代でしたから、その分、魚もよく売れていましたね。



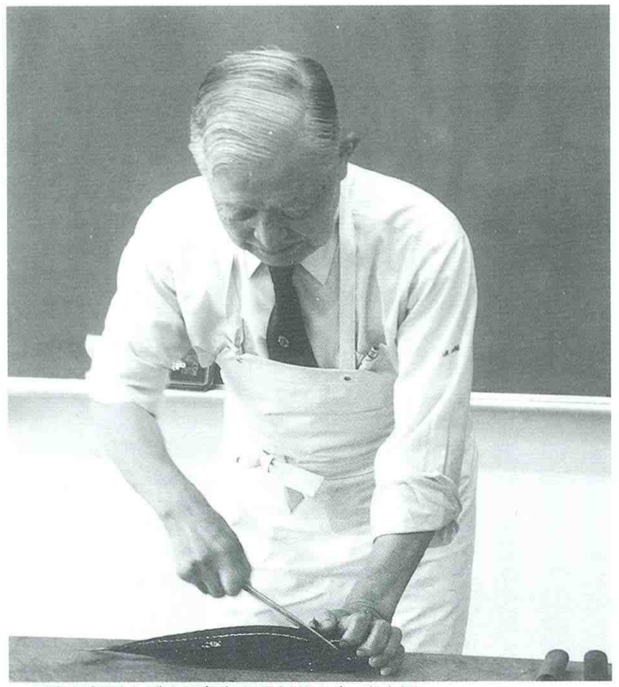
▲馬込さんにとって魚類市場は「男の仕事場」活力の源である。

子どものころは南洲寺や塩釜神社、少し離れた松原神社の境内でよく遊んだものです。車はほとんど通らず、今のパース通りが、わんぱく広場みたいなものでした。

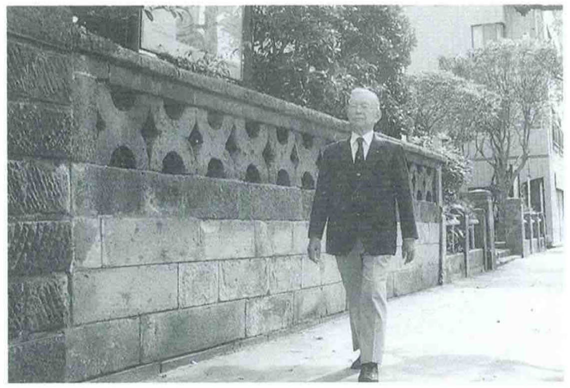
近くの南座で芝居を見たり、正月に南林寺公園で行われるサーカスに興奮したのも覚えています。

そうそう、サーカスは公園の近くの大きな木に登り、そこから、ただで見物したこともあります。鹿児島弁で言う「わりこっぼ」だったですから。

◀住吉町の旧魚類市場の跡に立つ。当時の市場のにぎわいが今でも目に浮かぶ

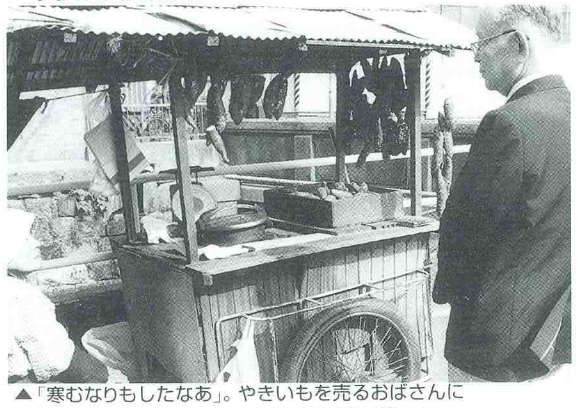


▲見事な包丁さばきで魚をおろしていく。まさに熟練の技である。〜魚類市場の見学会にて〜



月照の墓で有名な▶南洲寺前を歩く

▲パース通りは毎朝の散歩コース。この日も朝5時に起き、散歩をすませてきたという



▲「寒むなりもしたなあ」。やきいもを売るおばさんに気さくに語りかける馬込さん〜がんがら橋にて〜

清滝川に架かるがんがら橋の周辺も、鹿商の柔道部時代、裸足でヘトヘトになるまで走らされた思い出の場所です。この橋だけは、今でも当時の面影がわずかに残っていますね。

この春、今住んでいる南林寺ビルが新しく「ツインハウス南林寺」として生まれ変わります。十四階建ての高層ビルで、下の階が店舗で、上は市営住宅です。

人間が成長するように街も息をし、だんだんと大きくなっていくんですね。

このビルは、きっと南林寺の新しいシンボルになることでしょう。

完成が今から楽しみです。

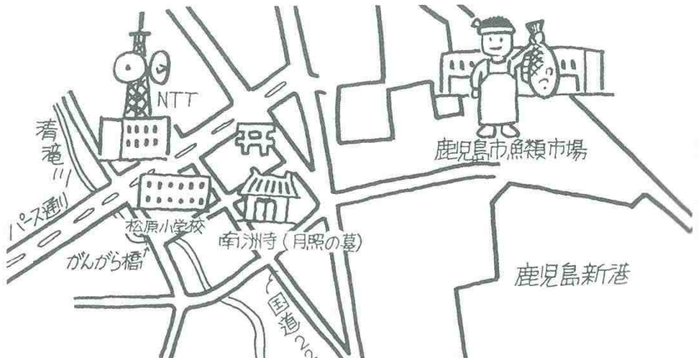
毎朝、パース通りを散歩していると、いろんなことを考えます。

私が病気らしい病気一つせず、今日まで元気にやってこれたのも魚のおかげじゃないかって……。

私にとって、魚は生きる糧。魚と出会って仕事をさせてもらい、おまけに健康という宝ものまで与えてくれた。

だから、声を大にして言いたいです。「ありがとう」って。

全てに感謝する心。これからもその気持をずっと持ち続けていたいですね。



●取材メモ

魚を食べると頭が良くなるという。魚の中に人間の記憶力や集中力を高めるDHA（ドコサヘキサエン酸）という成分がたっぷり含まれているからだそうだ。

さしずめ、馬込さんはDHAのかたまり。その明るいキャラクターと機転のきいたユーモアで、魚食普及協議会が開く「お魚料理教室」には、いつも笑いが絶えない。

昭和五十五年に設立された鹿児島魚食普及協議会の初代会長として、健康食「お魚」の一層の普及に努める。

焼酎とナツメロをこよなく愛し、司馬遼太郎を愛読する生粋の薩摩隼人。南林寺町在住。七十二歳。

市民のひろば

健康のポイント 運動・栄養・休養

十月は「健康強調月間」。人生八十年の今日、楽しく人生を過ごすためには健康であることが最も大切です。健康づくりのポイントは運動・栄養・休養。番組では運動と栄養を中心に、それぞれの専門的な立場からのゲストを迎え、自分の健康づくりについて語り合います。

「市民のひろば」はMBCから放送されます。放送日時は、毎月第３日曜日を除く日曜日の午前10時30分から15分間。ただし、第４日曜日は30分間。(この番組は平成5年10月24日に放送したものをまとめたものです)

【出演者】敬称略
美坂幸治（鹿児島大学教育学部教授）
福村ミサエ（食生活改善推進員）
磯川孝子（エアロビクスインストラクター）
赤崎義則（鹿児島市長）
上野知子（司会）

運動・栄養・休養で健康管理

上野　長寿社会といわれる中で、人生を楽しく過ごすためには「健康」が最も大切です。十月は健康強調月間にもなっているわけですが、皆さんは日頃、健康管理のためにどのようなことをしていらっしゃいますか。

美坂　週二回ぐらいは、ウォーキングやゴルフの練習などで下着を取り替えるぐらい汗をかきます。それに、運動不足が続くときは主食をいくらか減らし、宴会の後は普段より少し余計に歩く、たばこは吸わないなどですね。

磯川　体が資本の仕事ですので、バランスのとれた食事を心掛け、疲れが翌日まで残らないように睡眠時間を十分とるようにしています。

福村　家族の関係で朝が早く、夜が遅いので睡眠時間が不足がちになりますから、二～三十分は昼寝をするようにしています。また、買物なども運動靴を履いて歩いていくように心掛けています。

定期的な健康診査で健康チェック

市長　市長という仕事で一番大事なのは、やはり健康だと思っています。普段の健康維持は歩くことですね。家内と一緒に歩きますが、コミュニケーションも図れて非常にいいなと思っています。

また、毎朝、大きなコップ一杯の人参ジュースを飲むことや、仕事を離れたら仕事を忘れ、リラックスするようにしていることです。

毎年、誕生日には健康診断を受けています。健康チェックにいいですね。

定期健康診査で健康チェックを

上野　皆さん、それぞれに健康管理には気をつけていらっしゃるのですね。

ところで市長さん、市民の皆さんの健康という面では、どのような事業をしておられるのですか。

市長　まず、市民の皆さんに健康に関心を持っていただくための講座や教室を開催しています。さらに、病気の予防、早期発見のための健康診査、がん検診などです。

福村さんのような食生活改善推進員の養成など、食事と運動に関する事業も充実してきています。

一方で、いろいろな健康診査の検診率が低いようです。「健康に自信がある」という思いが市民の皆さんの中にはあるようですが、健康を維持するためにも健康診査を受けてほしいですね。

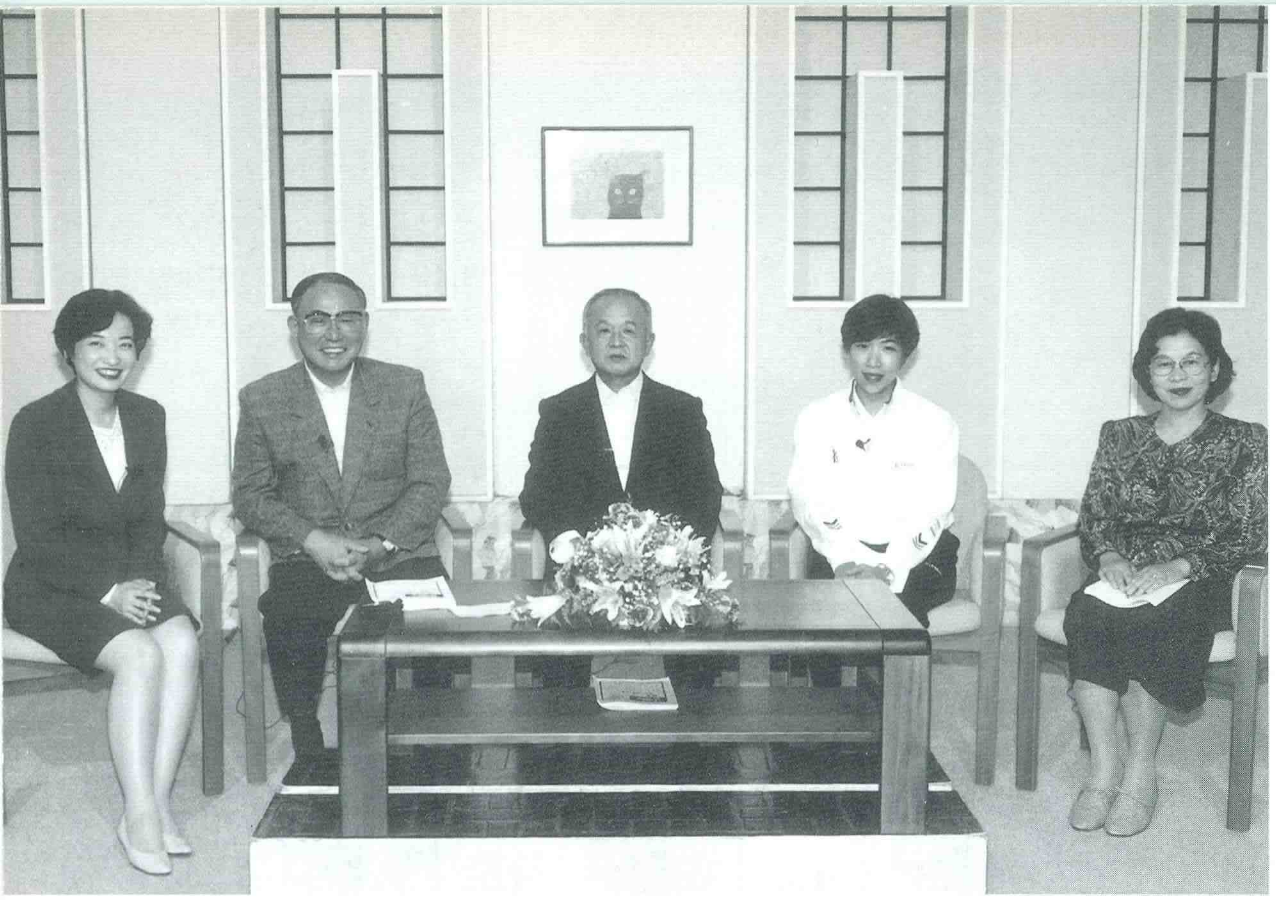
美坂　私は内科医としての立場から必ず定期検診を受けています。

家でも体重計にいつも乗るようにしていますし、お手洗いには尿の試験紙を置いています。

上野　そうすると、タンパクや糖もご自分でチェックできますね。

運動不足は脂肪を増やす 習慣にしたい運動

上野　ところで美坂さん、健康づくりには「運動」ということがひとつのポイントになりますね。


MBCスタジオで（写真右から福村さん、磯川さん、美坂教授、赤崎市長、上野アナウンサー）

美坂　人間の体は動かないと衰えてきますから、適当な刺激としての運動を生涯にわたって、いかに続けるかが問題ですね。

競技力を高めるためにはきつい運動が必要ですが、健康づくりのためには継続することが一番大きなポイントです。運動の強度、一回の持続時間、一週間の回数など個人に応じて考えることが必要です。

若い時にスポーツをしたといっても健康の保障にはなりません。生活習慣の中に運動をいかに取り込み、続けるかが大切です。忙しい人でも、一日中動いていると善玉コレステロールが増えてきますので、動脈硬化の進展を遅らせる意味では、ある程度効果があります。

上野　健康と体重の関係も切っても切れないですね。

美坂　体重は脂肪の重さと脂肪以外の重さ（除脂肪体重）に分けられます。身長の割に体重が重いというのは肥満とは別の概念で、体重の中の脂肪の多さで肥満度が決まります。体重が変わらないという人の場合でも、除脂肪体重は運動しないと減り、脂肪の量は増えていきます。これは考えておかないといけませんね。

長時間の弱い運動で肥満の解消

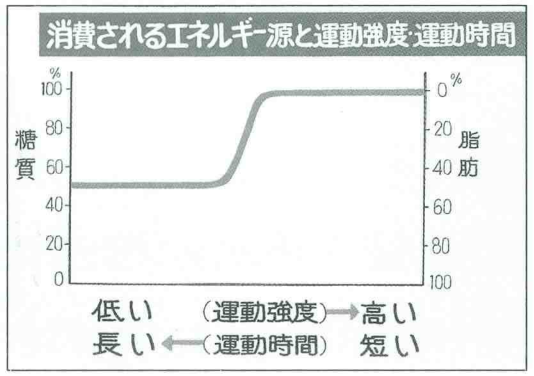
美坂　成人病の中で、がん以外のものは全て肥満が危険因子の最たるものです。

肥満の解消のためには、体内の脂肪をエネルギー源として使えばいいわけで、それには弱い運動を長時間続けることが最も効果的です。短距離走のように非常に激しい運動を短時間に行う場合は、一〇〇%糖だけが使われます。

脂肪を最大限に燃やすためには、長時間のウォーキングが一番良いということになりますね。

エアロビクスで楽しく汗を流す喜び

上野　歩くということは大切なんですね。



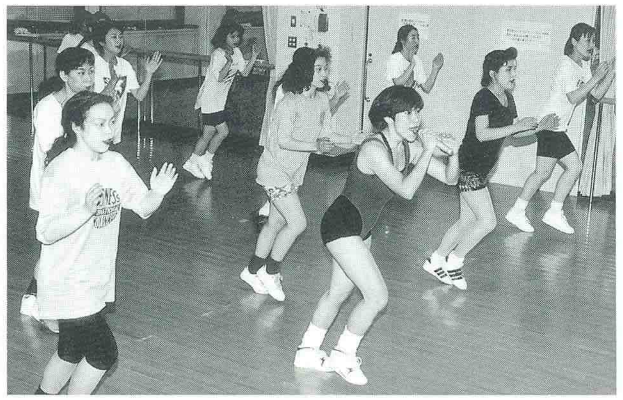
ところで、体重を減らそうとエアロビクスをなさる方が増えてきているようですね。

磯川　私は社会保険センターでもインストラクターをしていますが、最近は男性もかなり増えてきています。エアロビクスの愛好者は全国で六百万人ともいわれています。鹿児島でも六千人ほどいらっしゃるようです。

上野　私も経験がありますが、慣れないと、かなり厳しいですね。

磯川　そうですね。回数をこなすと、体が慣れて気楽にできるようになりますけど。

上野　教える上では、どのようなことに気をつけていらっしゃいますか。


軽快な音楽に合わせてエアロビクスで汗を流す
（かごしま社会保険センターで）

磯川　できるだけ体に無理のないプログラムづくりを心掛けています。特に、初心者に対してはシンプルな動きを中心に、楽しんでやれるようなプログラムにしています。途中で休憩を入れて心拍数を計り、無理をしないようにと注意しています。

　かなり汗をかきますが、「すっきりした」「きつかったけど楽しかった」という感想を話す方が多いです。レッスン前後にフォローしてあげることが長続きするためには必要ですね。

上野　磯川さん自身は六年前から始めたそうですが、効果の方はどうですか。

磯川　この仕事を始める前は運動不足でかなり太っていましたが、食事に気をつけ、運動をすることで減量できました。体力がついて体調もかなり良くなりました。

運動普及推進員養成講座で正しい運動の理論を学ぶ

運動普及推進員もボランティアで活躍

市長　VTRを見ていても、若い人、年輩の人、それぞれに楽しんでおられますね。

　美坂先生の話を伺って、やはり正しい運動の理論というのを勉強したうえでやると長続きし、効果もでるだろうなあと思いました。

上野　そういう意味では、指導者がいると大変心強いですね。

市長　市でも運動教室を開いていますし、社会保険センターなども利用して、正しい運動への理解を深めてほしいですね。

上野　市でも運動に関する知識を持った運動普及推進員がいらっしゃいますね。

市長　運動普及推進員は約百五十人いますが、将来は二百五十人ほどにしたいと保健所で頑張っています。ボランティアで活動していただいていますので、大変ありがたいですね。

年間8万人を指導する食生活改善推進員

上野　栄養という面では、食生活改善推進員がおられますが、福村さんはそのお一人として活動していらっしゃいますね。

福村　十年ほど前に保健所の栄養教室で医師や栄養士から、いろいろと教えていただきました。

　食生活改善推進員は、栄養や健康について学んだことを自分や家族はもちろんですが、地域の皆さんにお伝えして、地域の食生活の改善を進めるボランティアです。

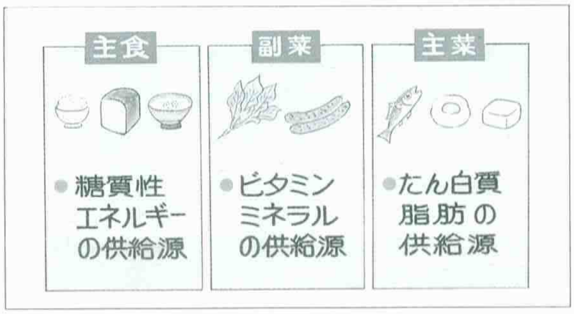
　このVTRは先日のエプロン料理教室の様子ですが、会社の休みを利用して、奥さん方とスキムミルクを使ったシチューを作りました。珍しい料理やおいしいものには皆さん喜んでくださるので、私たちもやりがいがあります。

市長　食生活改善推進員の皆さんは、年間に約八万人の方々を指導しておられます。地域の栄養改善の大きな助言者ですね。

　特に、近頃は子供さんを持った若い奥さん方が、ややもすると、栄養についての知識が乏しいということもありますから、そういう方々への指導にも大きな役割を果たしていただいています。

一日三十品目バランスのとれた食事を

上野　低脂肪、高タンパク質の魚の魅力も見直されてきていますね。



福村　食事はバランスが大切です。主食・主菜・副菜という三つのお皿を三度の食事にそろえるようにしてほしいです。

　それと、乳製品や海草類を交えて一日三十品目を目標にしていただくと、バランスのとれた食生活になると思います。野菜も、いろいろ緑黄野菜を混ぜたりして、たくさん摂っていただきたいですね。

睡眠と上手な気分転換適度な運動で疲労回復

上野　ところで美坂さん、運動や栄養のほかに休養も大切ですね。

美坂　そうですね。やはり、十分に睡眠時間を確保することが一番大切だと思います。それに物事にこだわらない、上手に気分転換ができるということも必要です。

食生活改善推進員は地域の食生活改善のリーダー

　精神疲労の場合には、積極的に運動によって疲労回復を図るということが必要だと思います。

自分の健康は自分で守り高めよう

上野　市長さん、今日は「健康」について皆さんにお話を伺ってきましたが、いかがでしたか。

市長　やはり、自分の健康は自分自身で守り、高めることが大事だと思いました。大変勉強になりましたので、これからの健康を高めるために生かしていきます。

上野　健康のためには運動・栄養・休養の三つがポイントになりますので、市民の皆さんも日常生活の中で実践なさってください。

　今日は皆さん、ありがとうございました。

ふるさとの史跡

▲寿庵宅地跡に建立された各碑

「新樹寿庵松記」の碑

鹿児島市文化財審議会委員　木原 三郎

波平刀は始祖橋口正国以来、明治中期まで六十四代に及び、中でも島津義弘の文禄、慶長の役に渡海し、千振の刀を作った五十六代石見守安張は特に有名である。

寿庵と号し刀の切れ味は素晴らしく、そのため島津軍はたいへん恐れられた。寿庵は谷山郷坂之上に住み、波平の地には長男安行を住まわせた。

出陣に際し、松の若木を屋敷内に植え、もし戦死したら、これをしるしとして墓とせよと命じた。やがて凱旋したが、松は青々と繁り「寿庵松」とたたえられた。寿庵の六代の孫行周の時、この松が枯れたので、二代目の松を植え替えた。この時、「新樹寿庵松記」の碑が建てられた。文化四年(一八〇七)丁卯冬、本府　向章記、児玉貞皎書と刻してある。碑文の撰者・向章は、造士館教授山本正誼の高弟向井友章の略といわれる。石碑は高さ一・四メートル、大分、風化して読みにくい。碑文に「軍中刀を造りもって将士に給う、鋭※からず鈍からず今に戎器(武器)の良と称す」とある。

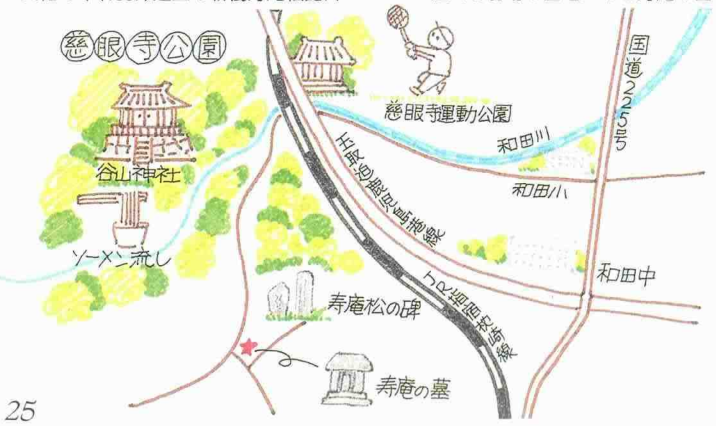
寿庵は波平中興の刀匠といわれ、新刀波平の祖となった人である。

※……刀の刃のねばりと強さを表したものである。

▲文化4年(1807)建立の新樹寿庵松記碑

▲昭和15年建立の新寿庵松碑

▲近くの射場の墓地にある寿庵の墓



集えば楽し

喝采を浴びる日のために……

劇団「風見鶏」

黄昏がまちに迫り、人々が家路に着くころ、ここ西千石町のビルにある稽古場に劇団員が三々五々集まってきます。

アマチュア劇団「風見鶏」のメンバーは現在十一人。会社員や公務員など、職業はさまざまです。

中央公民館地下ホールの「土曜小劇場」を支えてきた演劇好きの女性四人を中心に、劇団「風見鶏」が鹿児島市にうぶ声を上げたのが昭和四十九年。鹿児島市で一番長い歴史を持つ同劇団は、今年で記念すべき二十周年を迎えます。

離合集散の目まぐるしいアマチュア劇団が多いなか、地元鹿児島市にしっかり根づき、週二回の練習と年一回の本公演を欠かさず続けてきた劇団「風見鶏」。

これまでの数々の舞台は、人々に芝居を観る喜びとさわやかな感動を与えてくれました。

同劇団の創立当初からの演出家貫見忠司さんは「団員の数もたった一人だけという時期もありましたが、焦らず、自然体でここまでやってきました。勘定抜きにして、純粋に好きなだけ芝居をやれることがアマチュア劇団の一番いいところ。これからも〝馬鹿〟と言われるほどのひたむきさで、観客の皆さんを魅了し続けて行きたいですね」。

稽古場で流した汗と涙の数だけ舞台での喝采が鳴り響く——。

その日のために、劇団「風見鶏」の熱の入った稽古は夜遅くまで続きます。

朝市寸景

午前五時。にわかに、にぎやかになる朝市。

素晴らしい出会いと、ふれあいを楽しみにしながら通い始めて約十五年が過ぎようとしている。

幾多の苦難を乗り越え、親から子へ、子から孫へと引き継がれ、今だ、にぎわいを保っている。

新鮮な野菜・魚などが食卓を飾るであろう人達のために。

時代は過ぎても変わることなく、威勢の良い呼び声と笑い声にあふれている。

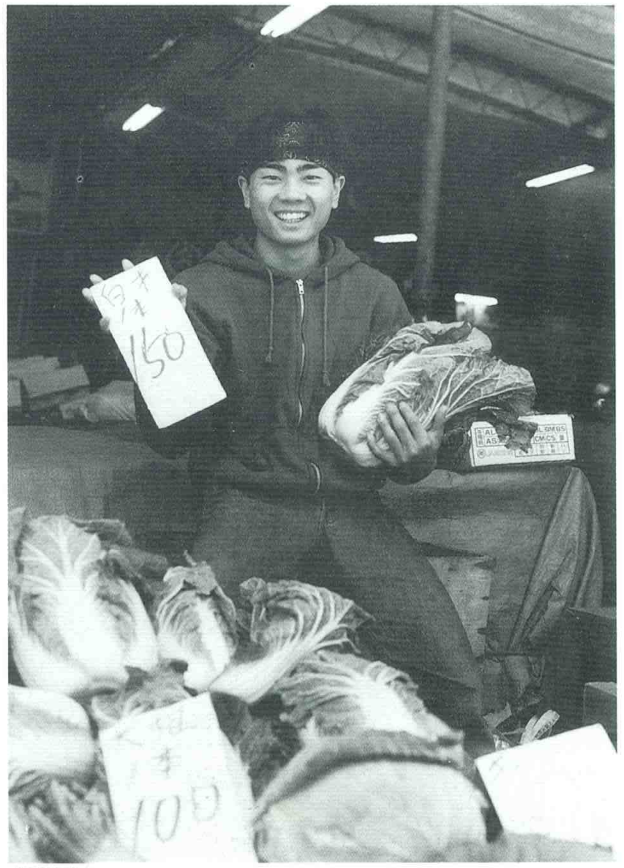
そんなふれあいの場として消えることのないようにと願いながら…。

写真と文／立和名　卓郎

昭和55年ごろ

平成5年

平成5年



平成5年

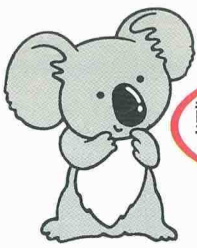
昭和53年ごろ

昭和54年ごろ

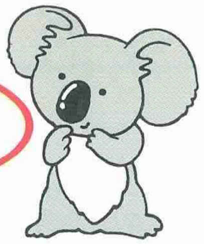
平成4年

平成5年

三世代そろって商売（平成5年）



動物公園のゆかいな仲間たち



今年の干支は戌（いぬ）。私たちが飼っているのはイエイヌで、祖先がオオカミと考えられています。長い間の交配や改良によって、現在、四百以上といわれる品種が世界中で飼われています。

平川動物公園にはイヌ科の仲間としてシベリアオオカミ（四頭）、ホンドキツネ（三頭）、ギンギツネ（二頭）、ホンドタヌキ（四頭）がいます。

【シベリアオオカミ】（シンリンオオカミ）

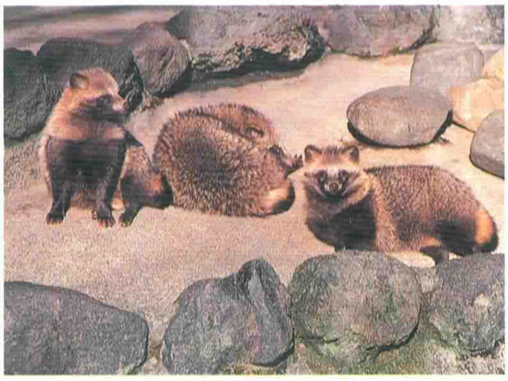
ヨーロッパ、北アメリカ、カナダ、アジアに分布します。肉食で、春から夏にかけては家族単位で生活しますが、冬季には十数頭から二十頭くらいの群れとなって獲物を襲います。

【ホンドキツネ】

行動範囲が広く、本州・四国・九州に分布しています。雑食性で繁殖期を除き単独で生活します。

【ギンギツネ】

黒い毛と銀灰色の毛先が美しく、カナダやシベリアに多く生息します。高価な毛皮を得るために飼育もされています。



【ホンドタヌキ】

本州・四国・九州に分布し、夜行性。雑食性で、家族単位で生活して、巣穴の外の一定の場所に糞をする習性を持ちます。木登りが上手なことがイヌ科の中では変わっています。

市立美術館

オフィーリア

(1901年～1909年頃)

サイズ(縦70.0cm×横52.8cm)

油彩

オディロン・ルドン(1840年～1916年)

〈作者〉 西洋近代美術の流れの中に重要な位置を占める「象徴主義」を代表する作家として知られる。1840年フランスのボルドーに生まれ、孤独な幼年時代を過ごし、後の幻想的な作家活動の原体験を得る。1855年以後、スタニスラス・ゴラン、ブレダンなどに師事。この間、独仏戦争従軍の経験を経て次第に画家としての地歩を築く。1879年「夢の中で」「エドガー・ポーに」「ヨハネ黙示録」などの名版画集刊行で名をあげる。1886年第8回印象派展、1890年ブリュッセル「二十人会展」に参加、1903年フランス政府が「眼を閉じて」を買い上げ、リュクサンブール美術館の所蔵となり、フランス美術界の巨匠として不動の地位を確立した。

1916年パリの自宅で死去した。76歳。

〈解説〉 本作品のテーマ「オフィーリア」はシェークスピア劇中、最も著名な「ハムレット」に登場する悲劇の女性である。正気を失ったオフィーリアは川辺の柳の木から水中に滑り落ちるが、自分のおぼれるのも知らぬげに水に浮き、鼻歌を口ずさみつつ死んでいく。

この場面はドラクロワの連作版画「ハムレット」、あるいは英国留学中の夏目漱石が強烈な印象を受けたといわれる英国の画家ミレー(バルビゾン派のミレーとは別人)の「オフィーリア」が有名であるが、これら写実的な作品と違い、ルドンのこの作品は彼の「眼を閉じて」シリーズの、瞑想する人間像の展開につながるもので、眼を閉じた女性の横顔をとりまく赤とグレーの微妙な諧調が、この世のものとも思われぬ幻想的な雰囲気を醸し出し、見る人を異次元の世界に誘い込む。

文芸上の運動として起こった象徴主義の主張を美術的表現の上に強く感じとることのできるルドンの代表作の一つである。

市立美術館館長　四藏典夫

市民フォトNo.55 編集発行／鹿児島市広報課 鹿児島市山下町11の1 ☎0992(24)1111(代)

お届けします！新鮮情報

鹿児島市 市政広報番組

受けとめてください、鹿児島市からのメッセージ♡

テレビ

●MBC「市民のひろば」
日曜日／10時30分～10時45分
第3日曜日は除く
第4日曜日は10時30分～11時

●KTS「市政の窓」
土曜日／16時55分～17時
日曜日／11時55分～12時

●KKB「かごしま市政ガイド」
金曜日／12時55分～13時

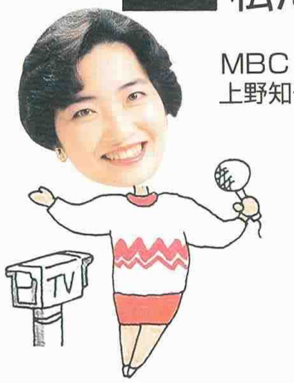
●KKB「かごしまシティーチャンネル」
日曜日／11時45分～11時50分

ラジオ

●MBC「市政スポット」
日曜日／11時40分～11時45分
（ほっとAMはなサンデー番組内）

●FMかごしま「マイタウンかごしま」
日曜日／8時25分～8時30分

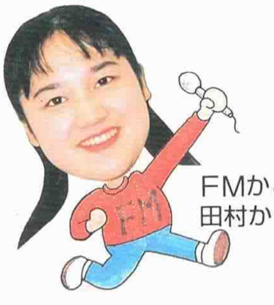
私たちがお伝えします



MBC
上野知子アナ

KTS
吉田玲子アナ

KKB
長山浩子アナ



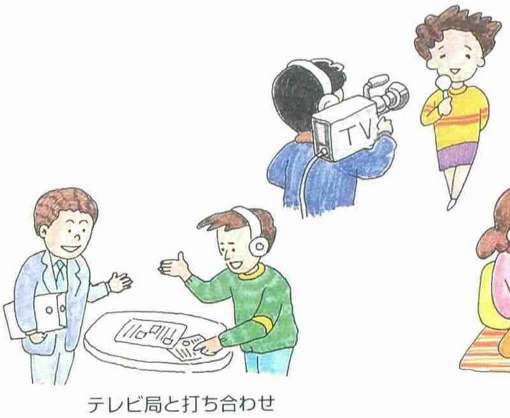
FMかごしま
田村かおりアナ

MBC
木戸宏美アナ

■番組が放送されるまで

広報課で企画

課内で企画検討



テレビ局と打ち合わせ

放送

お問い合わせ／鹿児島市広報課

レイアウト／ダンクリエイト 印刷／トライ社